

## ■北海学園大が3年ぶりの優勝。同率V狙う釧路公立大も3勝目。第7節

第50回北海道学生選手権第7節は10月6日、札幌市清田区の北海学園清田グラウンド・ラグビー場で1部リーグの2試合を行った。北海学園大は帯広畜産大に35-0と快勝し、4連勝で3年ぶり9回目の優勝を決めた。帯広畜産大は1分け3敗。釧路公立大は東京農業大を30-13で下して3勝1敗とし、同率優勝の可能性を残した。東京農業大は1勝3敗。6校で争う1部リーグは各校が4試合を終え、4戦全勝の北海学園大を、3勝1敗の北海道大と釧路公立大が追う展開。第8節で北海学園大と北海道大が直接対決し、第9節で釧路公立大が最終戦の帯広畜産大戦に臨む。結果次第では1983年以来41年ぶりの3校優勝となる可能性もある。

北海学園大-帯広畜産大は、北海学園大が第1Q3分、ノーバックから12連続パス攻撃で攻め込み、最後はQB成田滉佑（3年、札幌白石高）からWR八乙女凌太郎（3年、札幌東陵高）への21ヤード弾で先制した。第2Q開始直後にはQB成田滉の3ヤードラン、同3分にQB成田滉からWR五十嵐勇星（1年、札幌啓成高）への18ヤードパス、同8分にはRB末広大貴（1年、北海高）の6ヤードランで28-0とした。後半も第4Q2分にQB成田滉からWR八乙女への29ヤードパスで加点し、35-0とリードを広げた。守備陣も池原響生（4年、伊達緑丘高）、早川大翔（4年、札幌新川高）、櫻田裕丈（3年、静内高）のLB陣がそろってインターセプトを決めるなど固い守りを見せ、今リーグ戦で初の完封勝利を収めた。



選手15人の帯広畜産大は第3Q2分、LB安澤十野（2年、帯広柏葉高）が35ヤードのインターセプトリターンTDを決めたかに見えたが、反則で取り消しに。直後の攻撃シリーズでも敵陣3ヤードまで迫ったが、北海学園大守備にTDを阻まれた。

北海学園大の高木幸樹HCは「ノーバックは夏から準備してきて、初めて実戦で試した。北大戦に向け、ここから一週間、死ぬ気で準備したい」と、全勝優勝に強い意欲を見せた。TDランのRB末広は「OLの人たちが道を開けてくれ、走るだけだった。北大戦も出番があればTDを狙いたい」と意気込み、LB池原は「プレーに迷いが無くなり、いい方向に向いている。岐阜に行くことを目標にしているので、北大戦に勝って絶対に達成したい」と力を込めた。

一方、帯広畜産大の西龍一郎監督は「北海学園大に苦手意識があるのかもしれない。け

が人も多いが、最後にスタミナが切れた」と残念がり、TDが幻となったRB安澤は「向こうのレシーバーの動きを見て、後ろに下がったらボールが飛んできた。TDが決まっていたら雰囲気が変わったはず」と悔しがりながら「最終戦はホームグラウンドなので、何としても勝ちに行く」と決意していた。

釧路公立大―東京農業大は、釧路公立大が第1Q7分、K北館来星（3年、岩手・盛岡市立高）の33ヤードFGで先制すると、第2Q1分にRB田中巨人（4年、足寄高）の3ヤードラン、同7分にはQB石川諒（1年、根室高）からWR高坂駿佑（4年、滝川西高）への64ヤードパスで16-0とリード。後半も第3Q4分にRB畠山恵太（2年、岩手・盛岡中央高）の7ヤードラン、第4Q9分にQB中西亮太（3年、旭川商業高）の13ヤードランで加点した。



東京農業大は第3Q10分、RB若井純太（2年、旭川永嶺高）の21ヤードラン、第4Q4分にQB関叶翔（2年、茨城・日立北高）からWR浅川夏暉（2年、東京・安田学園高）への5ヤードパスで13-24と追いついた。守備もDB戸田省吾（4年、東京・関東国際高）が2インターセプトと健闘したが、及ばなかった。

釧路公立大の伊藤祐介コーチは「今日のテーマは総合力の底上げ。前半は狙い通りだった。ゲームプラン通りに若い力で点が取れた。守備も良かった」と収穫を強調。北海道大戦に続くTDパスのQB石川は「1本を取りたいときのプレー。一発で決められて良かった」と自信を見せ、公式戦初TDのRB畠山は「めちゃくちゃうれしい。チームに貢献できる走りをしたい。最終戦の畜大戦もプレーオフもTDを取りたい」と言葉を弾ませた。

一方、東京農業大の神田健心コーチは「個人技では負けたが、スカウティングを基にしたアサインメントは通用した。自信を持って次の試合に臨みたい」と最終戦に期待。QB関は、TDとなった浅川へのピンポイントパスについて「練習していなかったが決まった。レシーバーが良く捕ってくれた」と感謝していた。（広報委員 塚田博）